

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・スタッフルームに掲げ、また毎朝の申し送りに唱和し理念の実践に努めている。全体会議の場では理念に沿った教育や指導を行っている	開設時に作成した事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示しているほか、毎朝の申し送り時に理念を唱和し、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の4町内の皆様・小学校・保育園との交流に心がけている。各イベント招待や町内行事に参加したり、地域ボランティアの方々より草取りや畑の手伝いをしていただいております。ご利用者の知り合いの方訪問されたり、地域のファームからお米を届けていただいている	地域の防災訓練やさいの神、清掃活動にもご利用者と一緒に参加しています。また、近隣の保育園児と一緒にいも掘りをしたり、小学校にご利用者と一緒に出かける等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ぬくもり祭の開催や、折々のイベントへ参加いただきご利用者様とのふれあいで会話や理解いただく機会作りを行っている。ケアはどの様にされているか訊ねられるので、ありのままを説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期で開催し、町内会長・民生委員・老人会長・家族会代表・地域包括支援センター職員・利用者代表と施設職員で、活動報告や今後の取り組みへの意見・質問・指導を受けサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長や民生委員、老人会代表や地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者福祉課へ広報を毎回届けている。また地域包括職員との連携により協力関係が図られている	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。また、事業所広報も市に定期的に送付する等、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針のもと、やむを得ず拘束を行う場合は、ご家族様より同意書を書き、経過報告を行い、検討委員会開いている。また拘束について職員会議で拘束しないケアの実践を話合っている。(現在ベット柵2名・つなぎ服1名)	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、言葉による抑制についても管理者が気付いた時に指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員入社時・全体会議等に必ず研修を行い周知徹底し防止に努めている。男性職員は力が有るので優しく対応する事と声掛けするように指導している	事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様過去に1名制度利用の方あり、又現在1名保佐人を付けられた方あり。今後も全体会・ユニット会議で勉強会をもうけていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様への説明は、契約時等納得頂ける様しっかりと説明し、不安が無いように、また本人様には、毎日の生活で不安感を感じない様声掛けや接し方に気を付けています。また随時疑問は気軽にお尋ね下さる様伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話連絡時、日頃の様子をお話しし、気づいたこと、要望が無いか確認したり、家族会を開き交流を図り、意見や気づきを反映できるようにしています。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いかな確認しています。また、事業所の食事会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で職員から改善案が出た場合、ユニット内で検討したり、全体会議に図ったり、またアンケート実施し意見や気持ちの吸い上げに取り組んでいる	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、職員アンケートも随時実施し、職員の意見を吸い上げられるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	四月に基本給を上げ、上期の賞与はやりがいの感じる賞与を出し、向上心を持って働く気を起こさず様努めている。また個々に良いところは褒めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に資格取得できる様に研修を受けやすい環境整備している。また資格取得者は学んだことを職場に活かし人間性を同時に磨く様指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へご利用者様とドライブ兼ね訪問したり、施設使用品や、利用者対応等相談にのっていただいたり、市や県の研修に参加し他施設の方々との交流や意見交換をしている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これから1つ屋根の下、生活を共にし楽しく過ごして頂ける様、どんな小さな事でも、不安な事は相談していただく様伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切なお家族様を安心して預けて戴ける様、施設の取り組み方を説明し納得いただいている。また、困りごと・要望もお聞きし、ご家族様あつてのご利用者様であることを伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時、ご家族様の意向・ご本人様の望む生活に近づける支援内容を検討し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃から、ぬくもりの里は1つ屋根の下、みんなで生活する家族ですとご利用者様・職員と話しております		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご利用者様の様子を居室担当が写真入りメッセージでお届けしている、また3ヶ月に1度はぬくもりの里広報も届けております。受診・外出・外泊ではご家族の協力も戴き一緒に支え合うことが出来る様努めています	3ヶ月に1度は事業所広報をご家族にお送りしているほか、広報を送らない月には担当職員よりご利用者に応じて近況報告もお送りしています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所・知人の方々の面会やご家族様の協力のもと、お墓詣りに出かけたり外出や外泊され、今までの関係継続支援に努めている	知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族の協力も得て自宅への宿泊やお墓参りへ出かけたり、職員と一緒にスーパーへ買い物に出かけたり、行きつけの美容室に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人その人を見ながらお互い気の合う人との席順や、孤立しない様職員が中に入り利用者間のかけはしをし、みんながかかわり合えるように配慮している。またドライブの車席も考え対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡の方、自宅へ戻られた方、病院入院・特養へと、退所された方さまざまですが、やはり退所後は難しい面ありますが、状況をお聞きしている方もあります		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で本人の希望、意向の把握を会話や表情などから把握に努め、カンファレンスひらいたり、職場会議で取り上げケアプランの検討に活かし、ご家族にも伝えている	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	ご家族に意向確認をした際は、支援経過に状況を記録されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴を、本人・ご家族様からお聞きしたり、フェイスシートを居室担当が今の状況で見直し書き直しを行い職員間で情報の共有を行い、ケアやサービスの向上に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	ご利用者の生活歴の把握をよりできるようにフェイスシートを定期的に見直し、職員間で情報の共有をより進められることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りを行い、ご利用者様の様子について1人ひとり、その日の把握に努め、記録に残し職員全員が情報を共有できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の中で本人・ご家族の意向を確認しモニタリング・サービス担当者会議を定期的に関き、介護計画に反映させている	3ヶ月に1度のモニタリング、6ヶ月に1度のサービス担当者会議の前にはご家族の意向を確認し、介護計画に反映させています。	調査時点で介護計画の見直しが定期的に行われていない方もいましたので、改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に、本人の言葉や様子をそのまま記録し、職員がいつでも確認出来、対応出来る様情報の共有化で活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの要望や、ご家族様の意向を重視し柔軟な対応。他病院受診や理髪店・買い物同行。自宅地域への訪問もしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流や、野菜・食べ物等援助いただいている。また市のオムツ券の援助や訪問美容により心身の豊かな暮らしが出来る様支援		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、ご本人・ご家族様の希望をお聞きし、かかりつけ医のまま往診や受診されている。また施設医へ移せる方は移行していただき、毎週往診いただき、入院・検査など必要に応じて協力病院への紹介状にて職員が対応し受診されている	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診にも来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を作成するなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日、半日勤務の看護師と介護職員との連携により適切な対応や医師への連絡指示いただきケアの充実や受診が可能となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報提供を医療機関へ行い、また入院中は時々病院へ行き病院関係者との情報交換をおこなっている。病院側からも必要に応じて電話連絡をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りについて施設の方針を伝え、ご家族の同意を頂いています。また病状悪化時再度ご家族に確認し、主治医や看護師とも連携し移行に添うよう対応している	契約段階で管理者は看取りに関するホームの方針を伝え、同意書を頂いています。実際にホームで看取りの支援をしたご利用者もあり、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣にある消防署より年2回火災訓練を行い、毎月各ユニットで避難訓練実施し、また心肺蘇生・AEDの研修も消防署よりお出でいただき緊急時適切対応できるようにしている	消防署職員に来て頂き、心肺蘇生、AEDの使用研修を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中と想定した避難訓練を、近隣の住民や町内会長にも参加いただき実施。また非常食確保や、緊急連絡網の見直しをし施設に近い順に作成し全職員に配布し携帯への登録も伝えている。	事業所にて、夜間の火災を想定した避難訓練を行なっています。町内の防災訓練にも参加しているほか、災害時を想定した非常用の食品も確保されていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーや人格を重視し、言葉掛けやケアを行う様、職員会議での徹底やチームで注意しあい対応している。また契約時、広報や施設内への写真掲載を確認しています	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても契約時に確認が取られています。	広報への写真の掲載についても契約時に書面で同意を取られるようにされることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が自分のおもいや希望が表現でき選択出来る様、常日頃声掛けや傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしはやりたい事・出来る事をその人その人のペースでしていただき生きがいのある生活を送っていただく様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室洗面所に櫛を置き起床時などいつでも整髪出来、散髪・毛染めも行えられる。また、入浴時の洋服選びやクリームを塗られている方もあり身だしなみへの支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日3食の調理や盛り付け・後片付けを出来るご利用者様と一緒に、家庭での延長のように出来る喜びや畑で出来た物での食べる楽しみや喜びを感じていただいている。また外食にも出かけている。	調理や盛り付け、後片付けもご利用者と一緒に行っているほか、事業所の畑でもトマトやなすなどの野菜をつかっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒におやつを作ったり、ご利用者の要望に合わせて外食に出かける等の支援も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を記録・確認している。体重増加や減少の方には、看護師・医師との相談し1人ひとりに応じた食事量・栄養バランス・水分摂取に気を付けながら職員連携のもと行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る人には声掛けし行っただき、出来ない人には、その人に応じた介助をし、口の中をチェックし清潔が保てる様ケアし、協力歯科への受診を支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様全員に排泄チェックを行い1人ひとりに合わせた適切な誘導・支援を行っている。車椅子で立位がなくオムツをしている方で排便の訴えがあれば、トイレ対応している	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をみながら、またご利用者様を観察し、看護師・医師と相談しながら下剤の使用は個々の方に合う製剤・量・頻度の指示と、野菜重視の食事やAM・PMのテレビ体操を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴槽と特殊浴槽があり、ご利用者様の体調を見ながら本人のペースで基本2回(3回の場合もある)楽しんでいただいている。また入浴の記録はチェック表に必ず記載しています。浴槽の壁に富士山の写真をはり、ゆったりと気持ちよく入っていただける様考慮している	お風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、週2回、午前での入浴支援が基本ですが、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がる方にも、声かけの方法やタイミングを見計らい、入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	調査時点で入浴チェック表と入浴予定表にズレのあるところもありましたので、職員に入浴予定表を周知徹底されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後午睡される人、されない人、またなかなか夜間寝つけられない人などその人その人が安心して過ごしていただいたり安眠が取れるよう声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の個別ファイルに綴り、また職員が直ぐ確認出来る様記録カウンターファイルにも綴り、症状の変化や薬剤の変更にも、職員間で共有できるようにし、ご利用者の内服時確認と別の職員が服薬後の袋の確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の手伝いや花の水やり・玄関掃除や草取りを手伝っていただいたり、塗り絵・編み物・台布巾縫いなど自分が出来る事・したい事をされたり、ひとり1人にお聞きしたり、ご家族から生活歴を詳しくお聞きし、張りがあり楽しく過ごせる様、取り組んでいる。ユニット会議でも個別の取り組み型を検討している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は即ドライブ決行したり買い物や季節の花や紅葉見たり、外食にも全員参加できるよう支援している。またご利用者様が見に行きたいとの申し出に、ご家族様の了解のもとお連れしている。その人その人の行きたい所へは行けるよう支援している	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見やぶどう狩り、菊祭りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望とご家族様の了解のもと少額持っておられる方もいます。本人の安心感と、出かけた時ちよっと買える楽しみがあり喜ばれている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人のかけたい時・ご家族様からの取次など施設電話利用していただいている。また希望によりハガキや手紙も預かり送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳小上がりで洗濯物たたみや廊下はみんなの歩行訓練の場であり、出かけた写真や季節感の掲示物を貼り楽しんでいただいている。またトイレは香の消臭剤で気持ち良く使用され、居間には季節の花をかざり、換気や冷暖房には気を付け快適に過ごしていただけるようにしている	共有スペースは広々として開放感があります。共有スペースにある畳の小上がりはご利用者が将棋をしたり、洗濯ものを畳んだりして過ごせる場所です。飾られている装飾品も季節に合わせてあるほか、活動の様子をまとめた写真も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりでの洗濯たたみや、リビングでの塗り絵・台布巾縫いや、紙芝居、読書などみんなで行ったり、個々で行ったりなど1人ひとりの居場所として過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を置いたり、懐かしい写真を貼られたり、愛用の物を持参されたりと、ご本人様が家庭のような空間づくりと安心できる居心地の良いその人その人の部屋づくりに工夫している	居室には仏壇や賞状、ねじ巻き時計など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の配置は、その人その人に合ったベットの配置や物の置き方に工夫し安全に過ごしていただける様環境整備を行い、居室も本人様が直ぐ分るようにネームプレートを貼ったり、本人の写真を貼ったり等工夫している		